

知ってるようで
知らない私たちの町 ⑧

清らかな谷川に沿って形成された
民話の里 うついがわ

打井川



いるかもしれない大ウナギ

J R予土線で窪川から三つ目の駅が打井川。予土線・国道・四万十川がそろって長い直線で並んでいるさまは流域ではちよつと珍しい。その直線コースの途中に架かっている赤い打井川橋を渡り、県道55号線を打井川に沿って遡ると、国道側の数軒を含めて、口、中、奥の順で打井川の集落がある。

打井川は民話の豊富なところで、その中に谷川の水をせくほどの大ウナギの話があるらしいのだが、なるほど、この深



い山と清らかな谷川の水なら、ほんとうにいるのかも。しかし、口打井川に住むある古老が、「ウナギもだが、とても大きなカニが籠いっぱい捕れたのに、今は全然いなくなつた」と残念そうに話してくれた。

カニを捕る子どもたちの石碑

中 打井川の馬之助谷を4kmほど遡ると、馬之助神社がある。この神社は、200年ほど前にここに捨てられた馬之助という子どもを祀った神社である。沢ガニを捕る子どもたちの石碑が入口にあり、



おもちゃやお菓子が供えられていた。とてもかわいらしい石碑である。この神社の灯りは、谷川の水を利用した水力で灯しているのだと聞いた。さて、中打井川にはお宝



(上の写真)

がある。ほぼ完全な形で見つかった、弥生時代の耕作あるいは農耕具とされる環状石斧である。

ひと山越えれば・・・

中 打井川の集会所からさらに奥へ遡ると「道文さん」と親しまれる道文神社があり、毎年旧2月3日にお祭りが行われる。お祭りが賑やかだった頃は道の両側にお店が並び、バス10台ほどが連なつたそう。今でも日曜日になると、訪れる人が絶えない。ここは地理的に、打井川の一番奥でありながら、ひと山越えれば窪川や佐賀、大方、中村という位置にあるので、これらの地域の交流拠点になつていたと思われる。